

## ぼくのねこ

二年 原口翔空

ぼくのいえで、ジャムと言うねこをかっていました。ジャムは、はだいろとちゃ色の色をしたねこでした。ジャムは、人なつこくてこどもがすきなねこでした。ぼくが生まれる前からいたおにいちゃんねこでした。

ジャムのやさしいとおもったところは、ぼくたちがおさんぽにいくとしんぱいして、ずっとよこをあるいてついてきました。みちをわたるときは、「ニャーニャー」なくて、あぶないよと言ってるように、ちゅういしてきました。

ジャムは、さみしがりやさんでもありませんでした。ぼくたちが、かいものによく、かえりをずっとそとでまっています。ねるときもぼくのふとんの上でいっしょにねていました。

だけど、ぼくが年長さんのときに、ジャムは、びょうきでしんでしまいました。うごかなくなってしまうたジャムを見てぼくもかぞくもみんななきました。ジャムが天ごくに行けるように、かそうしておわかれしました。ぼくは、てがみをいっしょにいれました。さいごのおわかれでまたいっばいなきました。いまでもしゃしんを見たりすずの音を聞くとおもいだしてしまうこともあるけど、ジャ

ムが天ごくから見えてくれているとおもってがんばります。ジャムは、ずっとぼくのかぞくです。ありがとうございます。だいすきだよ。